

健康に良いだけでは、 人は食べない

～機能性食品研究から
甘味とストレス研究へ～

11月20日(金)
12:30-14:00
@オンライン (zoom)

清水精一先生

Smart Well-being Research 代表
大塚製薬株式会社 アドバイザー
博士 (心身健康科学)



1980年代に始まるFunctional Foodsに関する研究は特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品として社会実装を果たしていく。私自身は、抗血小板凝集薬の開発において、DHA・EPAの同効果を確認した。その後、海外での研究活動を得て、特定保健用食品の開発に従事し、いくつかの成果を得ることができた。最近では、特定臨床研究において良好な結果を得ることができた。このような経緯を持っても、人は健康に良いだけでは食べないものだと実感している。いわゆる食品の生理機能を三次機能と称され、味覚、匂い、食感など感覚に関しては二次機能と称される。今後、二次機能に関する研究が人々の健康に寄与する食品開発に繋がると考え、甘味とストレスの研究に取り組んだ。これまでの軌跡を共有させて頂きたい。

